

# 喜怒哀樂

発行：一般社団法人 認知症情動療法協会 〒113-0033 東京都文京区本郷3-25-11 4F  
株式会社 ユニケア内 TEL.090-8485-4105 FAX.03-3812-7496

2016年 夏号

## なぜなに？ 情動療法「BPSDはなぜ起こる？」

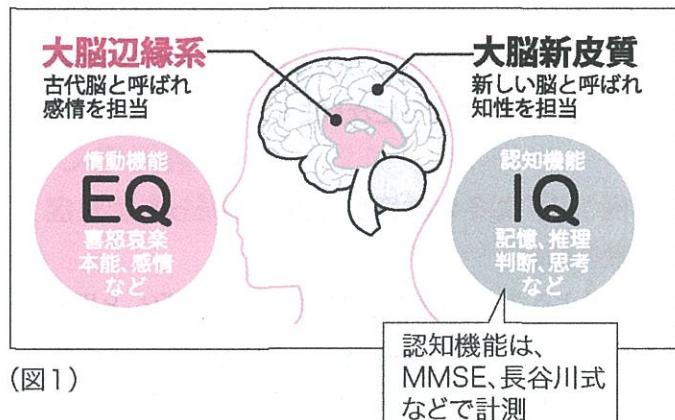
認知症の方と接していて、一番の悩みの種は、やはり認知症の周辺症状BPSD(Behavioral and psychological Symptoms of Dementia:認知症患者の精神行動異常)ではないでしょうか。暴力、暴言、不潔行為、不眠、過食、拒食、うつ症状、幻覚、妄想、徘徊などなど、患者さんによってさまざまなBPSDがみられ、それにより介護者は悩み、疲れ果て、介護意欲の低下さえ招くことがあります。情動療法の生みの親である佐々木医師、藤井医師の認知症専門病院仙台富沢病院でも、入院してくる患者さんはほぼ100%、ひどいBPSDのある方だといいます。今号ではBPSDの起こるメカニズムを考えてみましょう。

### 脳の機能から読み解くBPSDのメカニズム

そもそもBPSDはなぜ起こるのでしょうか？ レビー小体でよくみられる幻視のように病気の症状として現れるものや、薬の影響で出てくるものもありますが、それ以外のものについて佐々木医師、藤井医師は、長年の研究から現在解明されている脳科学に照らしBPSDの起こるメカニズムを読み解いています。

私たちの知能には大きく分けて、認知機能と情動機能があります。認知機能は、大脳新皮質

のつかさどる機能で、記憶、推理、判断、言語、考察、計算などが含まれます。一方情動機能は、大脳辺縁系のつかさどる機能で、感情、本能、欲、喜怒哀楽などを担当しています(図1)。



(図1)

私たちは、普段これらの機能を相互に作用させて一つの行動を起こしています。例えば、登山に行くという行為は、「山へ行きたい」という欲求(大脳辺縁系)が発端となり、どういうルートで行くか、標高はどのくらいだから装備はどの程度必要か、所要時間はどのくらいだから食料はどのくらい持つて行こうなどと、推理、考察、判断(大脳新皮質)して、行動に移しているのです(図2)。

(裏面へつづく)



一般社団法人  
認知症情動療法協会

ホームページ  
<http://jyoudou.jp>





(図2)

認知症はこの二つの知能のうち、大脳新皮質の認知機能が落ちていく病気です。それはMMSEや長谷川式の検査により、計測することができます。一方で、大脳辺縁系の機能は、佐々木医師らの研究によると比較的保たれている方が多くみられることが分かってきました。つまり、認知症の多くの方々が、大脳辺縁系と大脳新皮質の機能のバランスが大きく崩れていることが予想されるのです。

二つの脳の機能に照らして考えてみると、認知症の方々の一見理解しがたい言動も容易に理解することができるようになります。

### 事例① 『真冬に徘徊し行方不明だった認知症患者を保護』

このようなニュースを目にするとき、「なぜ？」と思ってしまいます。大脳辺縁系が機能していれば、「○○へ行きたい」と思うことは日常的にあるでしょう。それに対し、大脳新皮質もきちんと機能していたら「冬だし寒いからやめておこう」とか「行くなら厚手の上着を着て行こう」とか、「急にいなくなったら家族が心配するから、相談してから行こう」などきちんと推理、判断したうえで、事を進めることでしょう。しかし、認知症の方の場合、正しい推理や判断をする認知機能が低下し、熟考されないまま行動しがちです。その方にとって、「○○へ行きたい」という感情を行動に移したにすぎなくとも、はたから見たら命の危険の伴う重大なBPSD「徘徊」になってしまふのです。

### 事例② 『MMSE検査を拒否、検者に対し暴言』

このような事例もしばしばみられます。認知症の方の中には、MMSEや長谷川式の検査をしようとすると、とても嫌がり、怒り出す人や検査を拒絶

する人もいらっしゃいます。前述のように、こういった検査は、大脳新皮質の機能を測るもので、個人差はあるものの認知機能が低下している認知症の方には、当然よい結果は見込めません。一方で、大脳辺縁系は私たちと同じように機能していれば、それにより大変な屈辱感

を味わうことでしょう。問題には答えられないけれど、それが幼い子でも解けるレベルの問題であることは十分認識しています。「なぜあなたに計算問題を出され、それに私は答えなければならないのですか？」と詰め寄ってくる方さえおられます。大人としてのプライドを持ち続け、繊細な感情を持っている方にとっては、深い悲しみとともに問題を問い合わせた者に対して、自分をはずかしめたとして不快感を持つことも容易に理解できます。

認知機能と情動機能に着目して考えてみると、認知症の方は、認知機能が低下しているからといって決して何もわからなくなっているわけでも、子どもに戻っているわけでもないと分かります。豊かな人間性や尊い人生経験があり、長年社会を支えてきた大人としてのプライドがある方も少なくありません。

### 大切にしたい患者さんの情動

このようにBPSDは、二つの知能のバランス崩れから起こる場合があります。多くの認知症患者さんは情動機能を高く持ち続け、快・不快、好き・嫌い、敵・味方などを感じ取っています。こちらが人生の先輩として敬い、尊敬の念で接すると、情緒が安定し、BPSDの軽減もみられます。ぜひ、情動機能を意識した働き掛けをしてみてください。BPSDを減らすカギは、介護する側の心がけに深く起因していることを心に留めておきたいものですね。

次回は、BPSC(介護者の問題)についてお話しします。



# 喜努力愛樂

事例紹介  
レポート

発行：一般社団法人 認知症情動療法協会 〒113-0033 東京都文京区本郷3-25-11 4F  
株式会社 ユニケア内 TEL.090-8485-4105 FAX.03-3812-7496

2016年 夏号

協会推薦！お手本にしたい情動療法 vol.2

## パチンコ療法

アタマにイイこと実験中！  
カラダにイイこと実験中！

今回は当協会の賛助会員でもある豊丸産業株式会社さんの興味深い取り組みをご紹介致します。

愛知県名古屋市に本社があるアミューズメント会社さん、豊丸産業株式会社 未来事業室では、パチンコプログラム「トレパチ！」の持つトレーニング要素が、認知症の予防や認知機能の維持・向上にどのように作用するのか、今年2月より名古屋市内の複数の老人福祉施設にて検証活動を開始しておられます。パチンコの娛樂性を活かした、「トレパチ！」と脚部の鍛錬を中心とする運動器具をドッキングすることで、「楽しみながら」「カラダとアタマの健康維持を」「長期間にわたって日常的に」行ってい



ただけるのではないかと考えておられ、その実現に向けた試作研究を、日々行つていらっしゃいます。そして、その検証活動を開始したところ、日頃抱えている介護の問題に対しある明るい気付きが施設職員さん達から届くようになったそうです。それらを、具体的にご紹介いたします。

(裏面へつづく)

### 豊丸産業株式会社 様

事業内容：パチンコ遊技機の設計・開発、製造及び販売  
設立：1960年5月20日  
代表：代表取締役社長：永野光容  
住所：〒453-0803  
愛知県名古屋市中村区長戸井町3-12  
ホームページ：<http://be-selfish.jp/>

# For yourself, by yourself, enjoy yourself!

頻繁に  
「トイレへ行きたい」  
という利用者様

「トレパチ！」に集中することで、頻繁にトイレへ行くという執着心がなくなったのでは？

帰宅願望のある  
利用者様

夕暮れ時にエレベーター前に張り付く行動が減り、帰宅願望が少なくなった。

周辺行動のある  
利用者様

モノに当たる、モノを投げる、暴力などの周辺行動が遊技に没頭することで、一気に減少した。

意欲低下が  
顕著だった  
利用者様

「トレパチ！」に興味を示し、自主的に遊技することで笑顔も見られるようになった。

横になりがちな  
利用者様

「トレパチ！」をするために、離床したり移動する機会が増え体を動かす頻度も増した。

コミュニケーション  
が少ない利用者様

自身の遊技中だけでなく、他の方の遊技にも関心を持ち、見学するうちに会話が増え賑やかな雰囲気が生まれた。

運動機能強化、  
リハビリが困難な  
利用者様

簡単なゲーム性に加え、楽しく簡単な運動も同時にを行うことで運動機能の強化に繋がる。



▲「トレパチ！」に集中する利用者様たち▶



情動療法の基本である大脳辺縁系(EQ)への良い刺激が、行動への変化に繋がっているんですね。また、男性向けのプログラムがなかなか難しいと言われていますが、パチンコという慣れ親しんだ娯楽が気軽にだれでも参加できるということで、実際の検証現場でも良い結果を生んでいるようです。今後の広がりに期待したいですね！(認情協コメント)

# 出張セミナー致します！

当協会で主催するセミナーやイベントの他、外部で行われたこれまでの実績などもご紹介しております。  
ご希望により、出張セミナーなども開催しておりますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

## ＜対象者＞

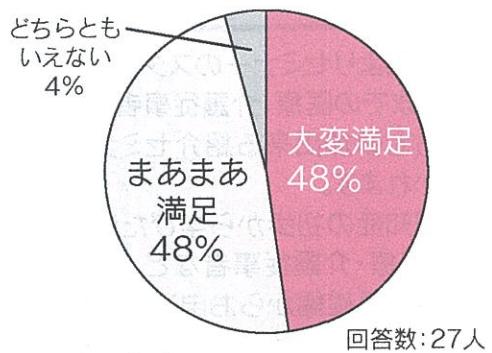
- ・医療・介護現場
- ・地域・団体
- ・認知症の家族
- ・シルバー世代
- ・最近気になる親のこと
- ・孫世代 等

対象者と目的別にテーマを  
選ぶ事ができます。  
お気軽にご相談ください。

## ＜テーマ＞

- ・介護と情動療法
- ・情動療法とビジネスマナー向上
- ・介護現場でのコミュニケーションの重要性
- ・認知症と情動療法を学ぶ
- ・情動療法を知ることで変わる介護
- ・情動療法を知ることで変わる看護
- ・家族ができる情動療法
- ・医師のための情動療法(産業医、開業医) 等

## セミナー満足度 (7/13セミナー調べ)



回答数: 27人

## 出張セミナー実績

2016年7月22日 社会福祉法人ウエルガーデン伊興園

「サービスマナー向上を目指す介護者のための認知症情動療法セミナー」 90分  
対象: 特養介護士



2016年7月13日 調布市地域包括支援センター

「今日からできる認知症情動療法セミナー」 2時間  
対象: 一般、家族、民生委員、介護士、ケアマネ

2016年4月13日 米沢市すこやかセンター

「家族や地域のための認知症情動療法セミナー」 90分  
対象: 米沢市労働者福祉協議会会員及び市民

調布市地域包括支援センターでのセミナー

## ご紹介ありがとうございます！

日本全国で月に3万部購読されている  
介護情報誌「ど～もど～も」に、情動療  
法協会の活動が目にとまり、2016年6  
月号(Vol.99)で、特集記事を4ページ  
にわたりて書かせていただきました。  
心と体にやさしいさまざまな情動療法  
や、世界初の認知症のための情動検査  
(MESE)について紹介しています。



# セミナーのお知らせ

今回よりセミナーのスタイルが、変更になります。これまでの医療・介護従事者向けの入門編は、一般の方も参加出来る紹介セミナーと基礎編の2つに分かれます。

認知症の初歩から学びたい方は紹介セミナーから、医療・介護従事者など、現場を理解しておられる方は基礎編からお申込みください。

また会員様特典としてよりお得な参加費で、セミナーを受講していただけるように致しました。

皆様のお申込みをお待ちしております。

## 会員募集中

\*お友達、ご同僚ご紹介下さい  
<http://jyoudou.jp>

### 第1回 情動療法 紹介セミナー

日 時:平成28年9月13日(火)  
14:00~15:30 (90分)  
対 象:認知症を初步から学びたい方  
参加費:会員無料 (非会員2,000円)

### 第1回 情動療法セミナー 基礎編

日 時:平成28年10月1日(土)  
9:30~12:30 (3時間)  
対 象:医療・介護従事者、患者ご家族など  
参加費:会員2,500円 (非会員5,000円)  
法人会員 無料

※会場は株式会社ユニケア(東京事務局)  
お申込み、お問合せは協会事務局まで

E-mail njk@jyoudou.jp TEL.090-8485-4105

## 会員様にDVDプレゼント!

ご入会順50名様



今年3月に東京で開催されたCareTEXにて、当協会の藤井昌彦先生が講演を行い大好評でした。その講演DVDを会員の皆様へプレゼントいたします。お楽しみに!!

演題:「認知症は怖くない!

認知症との上手な付き合い方とは」

## 予告!!

### イベント開催 IN 仙台

今秋11月5日(土)

仙台医師会館にて佐々木医師、藤井医師の講演イベントを計画中。

詳細は、後日お知らせします!!

## 第4回入門セミナー

### 受講者の声

たくさんの  
ご参加ありがとうございました。

- 動画がとても参考になったのでもう少し増やしてほしい
- 本セミナー参加者が、各施設で職員、ご家族に伝えてくれていたらなと思う。出張セミナーもてほしい
- 仙台富沢病院の見学を希望。見学ツアー等を企画してほしい
- 内容はわかりやすかったが、もう少しゆっくり話してもらえるとわかりやすかったと思う
- 情動療法士の資格を取る方法が知りたい。ほとんどの資格取得者用は高額で一括払いが多いため、介護職には大変厳しい。単位ごとの受講+支払など取得しやすくしていただけるとありがたい
- 情動療法をもっともっと医療や介護をはじめ、マスコミや市民に広めていただければ、救われる人も増えると思う。情動検査にはIQ的な発想が含まれている(人を数値で評価する)ようで、多少違和感を感じる。情動療法だけで十分ではないか
- 以前取得した認知症ケアのフラワーファシリテーターの資格も活かせる内容のセミナーだった。ひとつひとつの療法を切って考えがちだったが、情動療法という言葉を知って様々な療法をつなげて考えることができた。
- これまでの研究成果は資料配布のみではなく、介入の具体的な方法と効果について紹介してほしい

### 編集後記

情動療法を知ることで、これまでの認知症に対する価値観ががらりと変わります。それは、認知症は誰か他人のことではなく目の前の家族だったり、いつかは自分のこととして考えなければならない日がきっと来るからです。

歳を重ねることは、恥ずかしいことでも、責めることでもありません。その人なりの素晴らしい人生経験があるのです。

その人が自分らしく最後まで笑顔でいたなら、介護に携わる人達、家族、地域のみんながちょっと意識を変えたなら、日本はもっと明るくなるはずです。認知症情動療法は、きっとそのヒントを教えてくれると思うのです。

(専務理事 金田江里子)